

# ヨブゴンの奇跡：日本の ODA が私を守ってくれた

武田 忠久（アビジャン在住）

私は、1980 年に家内とともにここ西アフリカのコートジボワールに来ました。私の最初のミッションはトヨタモーターズの現地代理店でのローカル整備士の技術的底上げと全般的な技術顧問でした。

トヨタとの契約期間が終わり、首都アビジャン市のヨブゴン産業区域の一角に約 3000 坪の土地を確保して自動車整備工場を開始し、90 年代になってからはガソリンスタンド、飲食店業などをオープンしながら事業の拡張を試みていました。

当時この国は“西アフリカの奇跡“、あるいは”西アフリカの真珠“などと表現されていましたが、その安定と平和を私たちも享受していました。おかげで様々な試練はありましたが、事業それなりに軌道に乗り始めていました。しかしながら、1999 年になってクーデターが勃発して以来、以前のイメージとは想像もつかない民族対立や、宗教対立の様相をきたし、治安が極度に悪くなり、国のあちこちで強盗、略奪、殺戮行為が発生するようになりました。

その日は（2010 年）、いつものように私は自営業用の材料調達のために街に買出しに行った帰りがけの出来事でした。高速道路に入り、もう少しで産業エリアに着くという時でしたが、前方に黒煙が高くあがっているのが見え始めると、既に数十台の車が止められていました。すぐに遠くから見えていた黒煙は、彼らが古タイヤを燃やし、氣勢を上げながら道路封鎖を行っていたことが判りました。高速道路なので逸れるわき道も少なく、最後尾の車の後に並ばざるを得ません。よく見れば反政府軍の兵士たちが数人ずつのグループになり、銃口を突きつけながら、止められている車の乗客を引き摺り下ろし、金品、貴重品を身ぐるみ奪っているではありませんか！

万事休す！ もはやこれまでかと覚悟を決めました。程なく私の番になったので、自分から車を降りたところ、その中のリーダー格の一人が、「お前は何人か」と聞くので、「私は日本人だ」と答えました。すると彼は、「本当か」と言いながら、既に物色にかかっている自分の仲間に「止めろ、止めろ。お前たちも知っているだろう。日本はコートジボワールのためにいろいろな支援をしてくれていることを。日本人から奪うのはやめよう！！」と諭し始めたのです。そして、既に止められている車の

列と路肩の狭い隙間を、皆で私の車を誘導し始め、最後には手を振って解放してくれたのです。

なんということが起きたのでしょうか！ まもなく私は自宅に戻り、自分自身でも何が起きたのか信じられないこの奇跡に、車中でしばらく呆然としておりました。

日本は、20年、30年も前からアフリカの国々に JICA 海外青年協力隊等を通して様々な ODA 支援をなしてきました。そのような先人たちの汗と涙の滲んだ地道な実績が、このような信じがたい奇跡を起こした原因であると心底感謝を致しました。と同時に、自分は個人ではあるが異国では「日本」という看板を背負っているという自覚を持ち、今後は自分の一挙手一投足に責任と誇りを持てる歩みにして、未来に繋げるようにしなければと考えさせられました。